



令和 7 年度



ピースメッセンジャー

広島派遣報告書



もくじ

《 報 告 》 (学年順 氏名五十音順)

1. 「ぼくが見たヒロシマ」	国分寺市立第二小学校	5年	竹川 峻貴	………1
2. 「ピースメッセンジャーになって感じたこと」	国分寺市立第三小学校	5年	山本 明佳	………3
3. 「広島が教えてくれたこと」	国分寺市立第三小学校	6年	坂下 蒼一郎	………5
4. 「一発の原子爆弾」	国分寺市立第四小学校	6年	園田 明日香	………7
5. 「未来につなぐ 平和への想い」	国分寺市立第四小学校	6年	西手 紗渚	………9
6. 「平和への願い」	国分寺市立第一中学校	1年	岩村 咲月海	………11
7. 「核兵器の恐ろしさと今僕ができること」	東京都立立川国際中等教育学校			
		1年	青木 晴杜	………13
8. 「大切なのは日々の日常と記憶すること」	国分寺市立第一中学校	2年	清水 柳志	………16
9. 「平和への思いの輪」	東京都立大泉高等学校付属中学校			
		2年	田野 莉衣那	………18
10. 「被爆者の声にもう一度耳を澄ませて」	国分寺市立第一中学校	2年	堀場 千佳	………20
11. 「平和のために語り継ぐ過去と未来」	八王子学園八王子中学校	2年	宮地 あさひ	………22

《 資 料 》

◆ピースメッセンジャー広島派遣概要	………24
◆日程表(1日目～3日目)	………25～27
◆平和の絵	………28～33



「ぼくが見たヒロシマ」

国分寺市立第二小学校

5年 竹川 峻貴
たけかわ しゅんき

ぼくは、7月の末にピースメッセンジャーとして、広島に行きました。ぼくのお母さんの誕生日が終戦の日で、その日が近づくと同時に戦争関連のテレビ番組やニュースが増えていき、毎年戦争について家族で考えることがありました。世界では、今も戦争をしている国があって、それをテレビでみるのは、不思議な気持ちになります。今までテレビやニュースでしか見たことのない戦争を自分の目で見て、考えてみたいと思い応募しました。

実際に行ってみてぼくが印象に残った場所は、平和記念資料館と本川小学校です。平和記念資料館では、原爆にあった子どもたちの着ていた服や金属が溶けた物の塊などがありました。その中で一番心に残ったのは、原爆が落ちた時のCGです。きのこ雲や爆風などの被害を広島市上空から見たものが映っていて原爆にあった人々の悲しみや憎しみ、そしてもう二度と被爆者を出さないという思いがより分かりました。

本川小学校では、原爆の被害にあった壁や床、原爆投下後の細かいジオラマなどがありました。1階には、原爆の熱風で一瞬にしてガラスが変形して、中の飲み物がそのまま残っているジュースの瓶もありました。これを見て広島市を一

瞬で焼け野原にした4000℃の原爆による熱風の威力や恐ろしさを肌で感じました。

7月31日の夜、平和記念公園で「ヒロシマ平和の灯のつどい」に参加しました。そこにはカザフスタンの核実験場で被爆した外国の方や、実際に広島で被爆した方々もいました。そして平和の灯からいただいたろうそくの火を持ち平和記念公園を歩きました。この体験でより戦争の悲惨さや、亡くなられた方の思いが分かりました。

8月6日の朝「ヒロシマ平和記念式典」を見ました。広島市長や石破内閣総理大臣の思いを聞いて、たった一つの原爆でこれだけの人が亡くなった事、原爆が落とされて80年たった今でも後遺症に苦しんで、その理由で差別されている方々がいる事を改めて実感しました。

ぼくはこのピースメッセンジャーの活動で改めて戦争の被害や悲惨さ、たった一つの原爆でこれだけの人々がなくなり、今も後遺症に苦しんでる方々がいる事が分かりました。そして何よりもこの平和の大切さ、尊さがとてもよく分かりました。ぼくはいつかこの世が争いのない平和な世界になる事を願います。

ぼくが見たヒロシマ

忘れない

今までも これからも

「ピースメッセンジャーになって感じたこと」

国分寺市立第三小学校

5年 山本 明佳
やまもと はるか

私は、ピースメッセンジャーになる前にも、広島や長崎に原爆が落ちたこと、衝撃波や放射線の影響などは本やテレビなどで知っていました。ですが、実際に被爆した人の話を聞いたり、遺品を見たりしたことはありませんでした。特にテレビはアニメのようなものでしか戦争や当時の暮らしを見たことがなく、本当に起きた出来事なのかもわかりませんでした。5年生の6月ごろにピースメッセンジャーの募集の紙をもらい、前から興味を持っていたので応募しました。

一日目、平和記念資料館に入ると、「地球平和監視時計」という、最後の核実験からの日数と原爆が落ちてからの日数を表示する時計がありました。最初の部屋には、原爆が落ちる前の広島の写真が何枚も貼ってあります。そして次のエリアに入ると、1945年8月6日を迎える原爆が落ちるときの広島、原爆が落ちた瞬間を真上から見た映像が真ん中にありました。原爆が落ちた後の広島を見ると、あたり一面何もなく、ちょっとだけ建物の跡があるだけでした。本当は被爆して亡くなってしまった人々の遺体や遺品があるはずなのに一瞬で燃えて、溶けてなくなってしまったのだと考えると、とても恐ろしかったです。他にも人々が着

ていた服や溶けたガラス瓶、炭化したお弁当など、被爆した人々を想像するようなものがたくさんあり、館内の暗さもあって、とても怖かったです。

2日目は、原爆ドーム、原爆の子の像や、原爆死没者慰靈碑、本川小学校、袋町小学校、レストハウス、旧日本銀行広島支店、そして爆心地の跡に行きました。

原爆ドームは今まで建物しか見たことがなくて、地面のほうを見たら、がれきが転がっていました。訪れた場所それぞれに、被爆したピアノや太鼓、壊れたドアや窓、吹き飛んでついたガラス片などの被爆した跡がありました。全部を見ていると、被爆して亡くなってしまった方々の声や姿が思い浮かび、とても恐ろしい気持ちになりました。なぜ当時のアメリカはそんな残酷なことをしたのだろうと思います。

私は、ピースメッセンジャーとして広島に行くまでは、原爆の話といつても昔の話、とても離れた場所の話として感じていて、現実の出来事のような気がしませんでした。でも、行った後は、自分のことのように感じるようになり、もしも今住んでいる国分寺に原爆が落ちたらと想像してしまいました。戦争さえなければきっと原爆が落ちることもなく、被爆した人たちも平和に暮らしていたのだと思います。今年は終戦80年で、原爆が投下されてからも80年になりました。これを読んでいる皆さんにも、戦後80年の節目に平和について考えてもらえればと思います。

「広島が教えてくれたこと」

国分寺市立第三小学校

6年 坂下 蒼一郎

私がピースメッセンジャーに応募したのは、5年生の時に国語の授業で「たずねびと」という話を学習したことがきっかけです。ある日、主人公が駅構内の『原爆供養塔納骨名簿』のポスターの中に自分と同じ名前で同じ年の子を見つけます。主人公はその子を見つけようと広島へ行きます。

でも、その子は広島の原爆で亡くなっていました。私は広島で色々な場所に行つて「たずねびと」のお話は、ただのお話ではなかったと気づきました。

広島で特に印象に残ったことが二つあります。一つ目は平和記念資料館で見たものです。大やけどを負った人の写真、やけどで背中がぼこぼこにふくらんだ人の写真、被爆して黒い点が顔にいっぱいある人の写真、痛そうでかわいそうで見るのがつらかったです。

放射線や被爆の熱で、車輪が壊されたサドルのない三輪車も見ました。乗っていた子はどうなったのだろうと思いました。形がゆがんで中のおかずが黒い石ころみたいにこげているお弁当箱にも驚きました。普通の暮らしを一瞬で壊してしまう原爆の怖さ、威力のすさまじさを知りました。そして、火の海のような絵や川に

死体が流れている絵、黒い雨が降る絵を見ました。まさに地獄絵図でした。

二つ目は、被爆体験者の飯田さんのお話です。飯田さんは三才の時に爆心地から 900m の所で被爆。爆風の熱は 3000 度から 4000 度で速さは秒速 440m だと聞きました。すさまじい熱さと速さです。命は助かりましたが、被爆したために体の23%が異常染色体になってしましました。せっかく生き残っても被爆したせいで色々な病気で苦しむことになりました。そのうえ、被爆者だから一緒に遊んじゃダメ、近づいちゃダメ、という差別も受けたそうです。本当にかわいそうだと思いました。お話の最後に「今、東京に原子爆弾が落とされたら、放射能の黒い雨は関東地方全体に降るだろう。」と聞きました。考えたこともなかったです。恐ろしいです。

広島に行って、原爆の怖さを知りました。戦争はしてはいけないし、核兵器も無くしていかないといけないと思います。そのために、世の中で起こっていることに目を向けて世界中が平和になるように自分ができることをしたいです。まずは自分が広島で見てきたこと聞いたことをみんなに伝えようと思います。そして、友好、協力関係があれば戦争は起きないとと思うから、国と国とが手を取り合ってみんなが助け合える世界にしていきたいです。

「一発の原子爆弾」

国分寺市立第四小学校

6年 園田 明日香

1945年(昭和20年)8月6日8時15分、一発の原子爆弾が広島に落とされました。そのたった一発の原子爆弾が、無差別に多くの人の命を奪い、一瞬にして人々の暮らしが失われました。そして、生き残った人の人生も変えてしまいました。ほとんどの人が即死するほどの威力で、即死をまぬがれたとしても数日間苦しみ、死んでいく人もいました。それを目の当たりにする家族の苦しみは計り知れないものでしょう。

広島に行く前から原爆について母や祖母から話を聞いていましたが、今回、ピースメッセンジャーとして、初めて広島に行き、平和記念資料館や原爆ドーム、被爆をうけた小学校などを訪問し、多くの衝撃をうけました。私が想像していたものよりも遥かに残酷なことが起こっていました。原爆が落とされた直後だけではなく、放射線による後遺症によって亡くなった人も含めて広島だけで約14万人、長崎も含めて約21万人と、多くの人々の命が奪われたこと、被爆した人が差別されていたことを知りました。これらのことから私はこの原爆が落とされたのは戦争のせいであるし、戦争をしても何も生まれないし、失うものの方が大きい

と思いました。

いま世界では戦争が起きている国、核兵器を保有している国があります。もう二度と広島や長崎のような悲劇を繰り返さないためには核兵器を廃絶し、戦争をなくさなければならないと思います。そのためには戦争の恐ろしさについて語り継ぐことが核兵器や戦争をなくすための第一歩だと私は思います。

厚生労働省が2025年7月1日に発表したものによると今、被爆者健康手帳を持つ人が、全国約9万9,130人と、被爆者健康手帳を持つ人の数で、初めて10万人を下回りました。また、被爆者の平均年齢が、86.13歳と、被爆経験者の高齢化が進んでいます。今後、戦争体験者の語り部の方々がいなくなってしまった後はだれが戦争体験を後世に伝えていくのでしょうか。今を生きる私たちのような若い世代が伝えていくべきではないでしょうか。ですが、若い世代の人達には戦争のことについてあまり知らない人が多いと思います。なので、私はもっと若い世代の人達が戦争のことについて知る必要があると思います。そのためには、私に何ができるのか、これからもっと考えて行きたいと思います。

「未来につなぐ 平和への想い」

国分寺市立第四小学校

6年 西手 紗渚

私は広島に行き、戦争で得るものは何一つなく、ただただ失うものしかないのだと思い知りました。今の綺麗な広島からは想像がつきませんが、80年前に原爆が落とされた事は、原爆ドームや平和の像などが物語っていました。

平和記念資料館で、焼け焦げた三輪車、食べる事が叶わなかったお弁当などの遺品を目の当たりにし、私と同じ年位の子、妹達と同じ位の幼い子も大勢犠牲になったのだと、たまらなく悲しい気持ちになりました。

被爆した小学校の資料館で、家族の安否などを確認するメッセージを見ました。私は楽しい日常を当たり前に送っているけれど、80年前の広島にその当たり前ではなく、大切な家族、友達を失っていく日々はどれ程不安で怖かっただろうと辛くなりました。

広島の悲劇は、人々の体だけでなく心にも大きな傷を与えました。

当時3歳だった被爆者の方のお話を伺いました。3歳の頃の記憶がある人はどれだけいるでしょうか。私はほとんどありません。しかしその方は、3歳の頃に被爆した記憶を、80年経った今でも鮮明に覚えていらっしゃいました。夜中に家族

のことを呼んでしまう事もあるそうです。平和な時代に生まれてきた私達には想像出来ない程悲惨な出来事だったと思います。

原爆のゴルフボール程の小さな核が、沢山の人の人生を終わらせたのだと思うととても恐ろしくなります。

「ヒロシマ平和の灯のつどい」に参加した際、カザフスタン代表の方のお話を聞きました。カザフスタンにはかつて核実験場があり、実験によって放射性物質が撒き散らされ、健康被害や深刻な環境汚染を引き起こしました。

原爆が落とされたのは日本だけですが、核で苦しんでいる人々は世界に沢山います。言葉は通じなくとも平和への想いは同じだと、そして将来をになう子供達に伝え未来に繋がなくてはならないと、カザフスタン代表の方は訴えていました。

今、世界には1万2,241発の核兵器があるそうです。今なお各地で戦争が起き、核によって80年前のような悲劇が繰り返される可能性があります。

しかし、平和を諦めてはいけません。

戦後80年が経ち、この先原爆の恐ろしさを身をもって体験された被爆者がいない時代が訪れます。これからは、被爆者の方から直接お話を聞く事が出来た私達が、戦争の記憶、二度とこんな事があつてはならないという、核のない世界への強い想いを未来へ伝え続けていきます。

「平和への願い」

国分寺市立第一中学校

1年 岩村 咲月海

私は、広島で原爆のことについて学び、原爆投下の日八月六日に何があったのか、被爆者の方々はどの様な気持ちだったのかという事を、ピースメッセンジャーの活動をする前より深く考える様になりました。また、被爆者の方の話を実際に聞いたり、原爆資料館などで当時の様子を観たりして、広島を訪れる前までは、原爆のことを身近に起こったことだとあまり思っていなかったけれど、広島に行き直接原爆のことを学び深く考える事によって、広島という身近な所で実際に起きたことなのだと実感する様になりました。平和記念資料館や原爆ドームなど、ほかにも様々な所に行き、被爆者の方々の気持ちなどが少しでも感じることができました。なので、日本中の世界中の人達に広島に実際に行って、私と同じように原爆のことをもっと知つてもらいたいと思いました。

平和資料館では、私と同じ位の年の子が被爆時に着用していたセーラー服の説明を読んで、黒い雨の跡のシミが何度洗っても消えなかつたと知り衝撃を受けました。その女の子は、ガラスで大きな傷を負い、黒い雨による後遺症で下痢や脱毛などの症状が出たのだそうです。黒い雨は本当に恐ろしいと実感しました。

た。黒い雨の跡の残った白壁、放射線の被害による身体に現れた血の斑点などほかにも色々な当時起こった事を観て、このような戦争は二度と起こってはいけないと改めて思いました。

核兵器保有国のリーダーの方々に、実際に広島を訪問していただき、今回私たちが訪れた原爆資料館などの施設を直接観て、実際に被爆された方々に直接会ってお話を聞いて、核がどれほど恐ろしいのか知ってもらいたいです。また、戦争はその時だけではなく、人々の心を何年たっても傷つけ、心も身体もズタズタにし、永遠に人々を苦しめ続けている現実を直接観て感じて欲しいと強く思いました。そして、二度と起こってはいけない出来事なのだと実感してほしいです。

今回ピースメッセンジャーとして広島を訪れて、どの施設も心に残っていますが、中でも一番心に響いたのは、被爆者の方々の体験談のビデオなどを観たり、聴いたりしたことです。「おかあちゃん…」「助けて…」「水をくれ…」などほかにも色々被爆者の方々の言葉が一つ一つ深く私の心に残り、原爆がどんなに醜いか苦しいか悲しいかどんな気持ちだったのか色々な事が分かり深く考えさせられました。

この貴重な経験を先ずは身近な友達や家族と語り合い、世界で唯一の被爆国日本から世界中に平和の尊さを伝え、平和への願いを広めていきたいです。

『核兵器の恐ろしさと今僕ができること』

東京都立立川国際中等教育学校

一年 青木 晴杜
あおき はると

1945年8月6日 広島市

1945年8月9日 長崎市

この2か所に落とされた2つの原子爆弾は、計21万人の人々を死に追いや
りました。

ただれた皮膚、全身の火傷、むき出しになった骨、確かに文章や歴史の漫画で
は見たこと・聞いたことはありましたが、戦争を経験したことのない僕にはあまり
想像ができませんでした。

しかし実際に被爆地域に足を踏み入れ、被爆者の方の生のお話を聞き、実際に
被爆した建物や資料館でみた実際の写真と遺品の数々を目の当たりにし、原子
爆弾が奪った平和、原子爆弾が作った地獄がどのようなものだったのかを実感
し、言葉を失いました。

その中でも、本川小学校と平和資料館は特に印象にのこりました。

本川小学校は、爆心地から最も近い410メートルの距離で被爆しましたが、広

島市で唯一の鉄筋コンクリートの小学校であったため、校舎の一部は残りました。

その残った建物の 1 階の男子調理室を展示施設とし、実際に被爆した建物が見られます。

崩壊した分電盤や天井、被爆した石などは、遠くから見るだけの原爆ドームとは違い、実際に触ることができて、原子爆弾の威力を肌で感じられました。

そして平和記念資料館では、広島でおきた出来事がとてもわかりやすく展示されています。

展示された写真のすべてから、被爆者の方々の苦しみや苦労が感じ取れました。

特に印象に残ったのは N さんに関する展示です。

N さんは被爆後生き残りますが、その後放射線の影響で仕事もできなくなり、戸を閉め切った暗い部屋で過ごしていました。働かなければ餓死に追い込まれ、働けば病気が悪化する。病状は好転せず、ついに精神異常者にされ、自棄的になりました。

この展示から、原爆は被爆から生き延びても、その後の人生まで大きく変わり、苦労することになることを学びました。

二度とこのような爆弾を使ってはならないと思いました。

しかし、現在 核保有国は増える一方です。

世界の危うい状況に恐怖を感じています。

現在では広島・長崎におちた原子爆弾は‘小型’と呼ばれており、大型ともなれば広島の約 3300 倍の威力です。

東京都千代田区の国會議事堂に落ちたとしたら、25 キロはなれたこの国分寺市でさえも強い熱線による火災と火傷の発生や、窓ガラスの破損、中程度の建物被害、放射性降下物および黒い雨の被爆域になると AI が予想しています。

こんな状況に世界があることに、1か月前の僕は知りませんでした。

僕のように知らない子供も多くいると思います。

このままでは、いくら記念館などの永久に残るものがあっても被爆者の方は減り、核兵器に危機意識を持っている人も減り、伝えていく人も減ってしまうでしょう。

もしかすると、日本まで核兵器を保有してしまうこともあり得るかもしれません。

そんな現状を開拓するためにも僕は、今回参加したピースメッセンジャーのような『平和を訴える活動』に、これからも積極的に参加していき、少しでも多くの方々に核兵器の恐ろしさをより深く実感していただきたいと思いました。

また、核保有に関するこれからの日本の未来は、政治によって決まります。

そのため、選挙権を持つ前からでも、政治について理解を深めたいと思います。

「大切なのは日々の日常と記憶すること」

国分寺市立第一中学校

2年 清水 柳志

私はピースメッセンジャーとして広島に訪れた時、「戦争の悲惨さ」を学びました。

また、改めて今の「平和の形」について考えることが出来ました。広島は原爆の被害を受けた街ですが、同時に、その原爆から復興を成し遂げた街でもあります。夏の強い日差しの下、緑豊かな並木道を路面電車が走り、原爆ドームの前では観光客がカメラを構えています。その風景は、かつてここが地獄のような光景だったとは感じさせないくらいでした。

しかし、平和記念資料館に足を踏み入れると、空気が一気に変わりました。火傷の手当を受ける少年、高熱火災の絵、小さな子どもの遺影。静まり返った展示室では、誰もが言葉を失っていました。その一つ一つが、外の明るい街並みとは対照的であり、「平和」という言葉が決して当たり前ではないことを目の当たりにしました。被爆者の方から直接お話をうかがったとき、その感覚はさらに強りました。「あの日、助けてと叫ぶ声が、あちこちから聞こえてきても、自分の事で必死だった」と語るその声には、80年経った今も消えない心の痛みがあ

りました。過去の出来事ではなく、今も続くこととして戦争の爪痕を背負っていることを知り、とても胸が痛くなりました。

私はこれまで「平和=戦争がない状態」だと単純に考えていました。しかし広島で学んだのは、平和とは人と人が信頼し、日常を積み重ねていく過程そのものだということです。

何気ない会話、そこに至るまでの歴史を知ったとき、その日常は特別な意味を持ちます。

ピースメッセンジャーとして、私は過去の悲劇を語り継ぐと同時に、この穏やかな日常の尊さが何より大切だということよりもより周囲の人々に伝えていこうと思います。

また、この日々の日常は戦争で最も奪われやすい最も守らなければならないものだと信じています。

そして、広島と長崎の原爆、原爆を落とすに至った戦争は絶対に忘れてはならない記憶です。原爆が落とされてから 80 年の時が経ちました。

その記憶はどんどん薄れていきます。だからこそ、戦争と原爆を体験した日本で日々の日常を送っていくことに感謝しながらしっかりと 80 年前の出来事を記憶することが日常を生きる私たちの義務なのではないでしょうか。

「平和への思いの輪」

東京都立大泉高等学校附属中学校

2年 田野 莉衣那

1945年8月6日午前8時15分広島の上空でピカッと太陽のように原爆は光り、その後ドーンという音と爆風により一瞬で人々の日常が消え去りました。以前は活気に満ちていた広島の地は死体や灰であふれ、皮膚がはがれて生きているのに幽霊のようになっている人もいました。まさに「地獄」です。

私にこのような壮絶な被爆体験を語って下さったのは、爆心地から900メートルという至近距離で被爆した飯田國彦さんという方です。きっと被爆を体験していない私たちには考えられないほど苦しく辛い体験だと聞けば聞くほどよくわかるのですが、飯田さんは淡々とこの出来事を語って下さいました。実は飯田さんだけではなく、国立広島原爆死没者追悼平和祈念資料館でも被爆者の方々が被爆体験を語ってくださっているビデオも視聴しました。そこでも淡々とご自身の被爆体験について語っておられる被爆者の方々がとても印象的でした。私はなぜこのような体験を淡々と語ってくださるのかとても不思議でした。しかし、飯田さんの被爆体験を聞き、そして質問などをすることによりなぜ苦しい体験を語つてくださるのかわかりました。それはこのような悲惨な出来事を二度と繰り返さず、

平和な世界をつくるには核兵器を廃絶しなければならないという強い思いが込められているからということです。被爆者の方々は平和への思いを伝えるために日々被爆体験を語ってくださっていました。

今世界では、ウクライナ侵攻やガザ紛争など決して平和とは言えない現状があります。私たちは戦争を直接止めに入ることはできません。もしそうして止めに入ることができたとしてもすぐに戦争がなくなることはありません。そういう意味では私たちは無力です。しかし、だからこそ私たちは平和について過去や現状から学び、平和について考えていく必要があります。考えるだけでは平和にはならないと考える方もいるかもしれません。しかし、平和について考えることでそれを意識することができます。そうすると平和への思いが生まれ、その思いへの輪が広がっていくことで世界は平和になれるのではないかと思います。そのように平和への思いの輪が広がるには過去や今なにが起こっているのか知る必要があります。しかし今や被爆者の方々は年々少なくなっています。だからこそ私たちは原爆のことについて語りつぎ、平和について考え、平和への輪が広がっていくようにしていきたいです。

「被爆者の声にもう一度耳を澄ませて」

国分寺市立第一中学校

2年 堀場 千佳
ほりば ちか

世界では広島での原爆の悲劇が忘れ去られたかのように同じ過ちを繰り返

し、今も戦争が起こっています。

戦後から80年という長い月日が流れ、当時のことを体験している方は少なく

なってきています。そこで戦争の小説を読み興味を持ち始めたこともあり、被爆

体験者の方から原爆についてもっと話を聞き、深く学びたいと思いピースメッセ

ンジャーに応募しました。実際に爆心地から900mのところで被爆した飯田國

彦さんから話を聞いたり、平和の灯の集いに参加したりなど貴重な体験をする

ことができました。こうした体験を通じて私は特に次のことを学びました。それは、

戦争で得るものは何一つなく、ただ何の罪もない人々の命が失われていくだけ

だということ、たった一発の原爆で大勢の人の人生がくるってしまったということ

です。ここで、実際に被爆した飯田國彦さんからの話を紹介します。

8月6日、三歳だった飯田さんは母と姉と一緒に母の実家で被爆しました。ピ

カッという強い光が走り爆風で畳と一緒に高く吹き上げられ、ガラスが体全体に

刺さりました。あたりは炎で覆われ爆風で割れたガラスが体全体に刺さり大け

がをした人、服も皮膚もはがれ幽霊のように腕を前に出して歩く人、川を埋めつくすほどの死体であふれ、市内になくなつた人を焼くにおいが充満し、あちこちで黒い煙が上がっていたそうです。放射線を浴びたことで髪は全部ぬけ、体は変色しました。足から皮膚がはがれていき約一か月後、母と姉は亡くなりました。その後も原爆は飯田さんを苦しめ続け大腸炎や頭痛、貧血、めまいが続き体はどんどん弱っていました。80年たった今も細胞の23%は異常染色体のままだそうです。

私にはとても想像がつきません。家族が助けを求めているのに助けられないむなしさや、逃げたことで後々後悔しづつと苦しめられた被害者の方の気持ちは、とても苦しく言葉にはならない痛みだったと思います。しかし、被爆者の方々はその苦しみに耐え核兵器廃絶に向け立ち上ってくれました。

日本は世界でただ一つの被爆国です。日本を最後の被爆国とするために、つないでもらった核兵器廃絶の声を全世界に届けるために、80年前の8月6日、午前8時15分に広島で起きた悲劇を学ぶことは現代を生きる人々、なかでも次の世代を担う私たちにとって、非常に重要なことではないでしょうか。

「平和のために語り継ぐ過去と未来」

八王子学園八王子中学校

2年 宮地 あさひ

私は今回、広島を訪れて原爆について深く学ぶ機会を得ました。これまで原爆については学校で学んだり、写真を見たりしたことはありましたが、実際にその場所を訪れ、自分の目で見て、話を聞くことで、これまで感じたことのない恐ろしさや悲しさを知りました。

平和記念資料館では、原爆によって亡くなった人々の遺品や、破壊された街の写真、やけどを負った人々の姿などが展示されていました。特に心に残ったのは、黒く焦げたお弁当箱や、焼け残った学生服です。それらは、普段通りの生活を送っていた人々が、一瞬にして命を奪われたという現実を強く物語っていました。自分と同じような学生だった子どもが犠牲になったことを想像すると、胸が痛みました。

また、被爆体験者の話を直接聞くこともできました。人であふれた避難所が、翌日には死体であふれたというエピソードには言葉を失いました。さらに、生き残った人々が今も原爆病で苦しんでいると知り、胸が締めつけられました。体験

者の方の語る言葉一つ一つが重く、戦争や原爆がどれほど多くの人の人生を一瞬で変えてしまったのかを、改めて痛感しました。

ヒロシマ平和の灯のつどいでは、たくさんの人々が平和を願って参加しており、静かな中にも強い思いを感じました。自分一人の力は小さいかもしれません、多くの人が平和を大切に思い続けることが、未来を守ることにつながると強く感じました。

今の日本は「二度と戦争をしない」と誓いを立てています。この状態は平和だと思いますが、平和の裏には多くの犠牲と努力があることを忘れてはいけません。広島で学んだことは、平和はただ待っているだけでは得られないということです。私たち一人ひとりがその大切さを意識し、行動し続けなければならないという責任を感じました。

これからも戦争の悲惨さを語り継ぎ、過去の過ちを繰り返さないようにすることができ、平和を守るために必要なことだと実感しました。今後は、平和を伝える一人として、私にできることを考え続け、実行していきたいと思います。

《ピースメッセンジャー広島派遣概要》

資料

実施日	令和7年7月30日（水）・31日（木）・8月1日（金） 2泊3日
内 容	原爆の子の像へ折鶴奉納・原爆死没者慰靈碑へ献花・「ヒロシマ平和の 灯のつどい」参加 広島平和記念資料館・原爆ドーム・本川小学校・袋町小学校見学ほか
宿 泊	ホテルマイステイズ広島 平和公園前 〒730-0051 広島県広島市中区大手町3-3-1 TEL 082-536-2031／FAX 082-536-2032
集 合	JR国分寺駅 みどりの窓口前 7月30日（水）6時30分 時間厳守!
解 散	JR国分寺駅 みどりの窓口前 8月1日（金）16時（15時30分国分寺駅到着予定）
目 的	○ピースメッセンジャーとして、原爆死没者慰靈碑へ献花を行い、平和の尊さを考えてみんなに伝えよう ○広島平和記念資料館や原爆ドームなどを見学し、核兵器の恐ろしさを肌で感じよう
持ち物	○必ず持ってくる物 しおり・筆記用具・帽子・着替え・汗ふきタオル・雨具・熱中症対策グッズ（クールタオルなど）・健康保険証のコピー（両面）・生徒手帳（中学生）・移動用のカバンやリュック ※タオル類・洗面バス用品・ドライヤー・ガウンタイプのパジャマ（大人用）はホテルにあります。 ○必要があれば持ってくる物（自分で責任を持って管理すること） おこづかい・おやつ・カメラ・時計・携帯電話・充電器・薄手の上着・いつも飲んでいる薬など
服 裝	○動きやすい服装 ○靴は履きなれた運動靴（たくさん歩きます）

【日程表】

1日目／7月30日(水)

資料

時 間	行 動	内 容	備 考
6:30	集合	国分寺駅 みどりの窓口前集合	
6:51	国分寺駅発	中央線快速で東京駅へ	
7:36	東京駅着		
8:00	東京駅発	新幹線(のぞみ61号:広島行き) ☆車内は自由時間です。☆楽しく、静かに過ごしましょう。	
11:00	車内で昼食		
12:02	広島駅着		
12:25	広島駅 発	(広電1号線:広島港行き)	
12:43	中電前 着	荷物を預けます。部屋には入りません。	
13:00	平和記念公園到着	平和記念資料館見学	約120分
15:00		平和記念公園散策 ※気温など状況により変更の可能性あり	約60分
16:00	平和記念資料館 (メモリアルホール)	被爆体験者講話聴講及び質疑応答	約60分
17:30	夕食	市長と懇談	約60分
18:45	ホテル着	荷物を持って部屋に入ります。	
19:15	感想まとめ		
21:00	就寝	明日に備えて休みましょう。7時15分起床です。	

【日程表】

2日目／7月31日(木)

資料

時 間	行 動	内 容	備 考
7:15	起床	洗面・着替え	
7:45	朝食		
8:50	ホテル発		
9:06	中電前駅 発	(広電3号線:広電西広島行き)	
9:14	原爆ドーム前駅着		
9:25		原爆ドーム	約20分
10:00		原爆の子の像へ折鶴奉納	約15分
10:25		原爆死没者慰靈碑へ献花	約15分
11:00		本川小学校平和資料館見学	約45分
12:00	昼食	市長と懇談	約60分
13:15		爆心地見学	約15分
13:40		平和記念公園レストハウス見学	約40分
14:30		国立広島原爆死没者追悼平和祈念館見学	約20分
15:15		袋町小学校平和資料館見学	約40分
16:15		旧日本銀行広島支店見学	約40分
17:00	夕食		約60分
18:20	ホテル着		
18:45	ホテル出発		
19:00	原爆死没者慰靈碑前	ヒロシマ平和の灯のつどい	約60分
20:15	ホテル着		
20:30		感想まとめ	
21:30	就寝	明日に備えて休みましょう。6時30分起床です。	

★メモ

【日程表】

3日目／8月1日(金)

資料

時 間	行 動	内 容	備 考
6:30	起床	洗面	
7:00	朝食		
7:45		荷物整理	
8:50	ホテル発		
9:03	中電前駅 発	(広電1号線:広電駅行き)	
9:25	広島駅着	お土産を買うことができます。	
10:43	広島駅発	車内は自由時間です。楽しく、静かに過ごしましょう。 新幹線(のぞみ18号・東京行)	
12:00	車内で昼食		
14:33	東京駅着		
14:52	東京駅発	中央線特快で国分寺駅へ	
15:30	国分寺駅着		
15:45	市長あいさつ		
16:00	解散		

★メモ



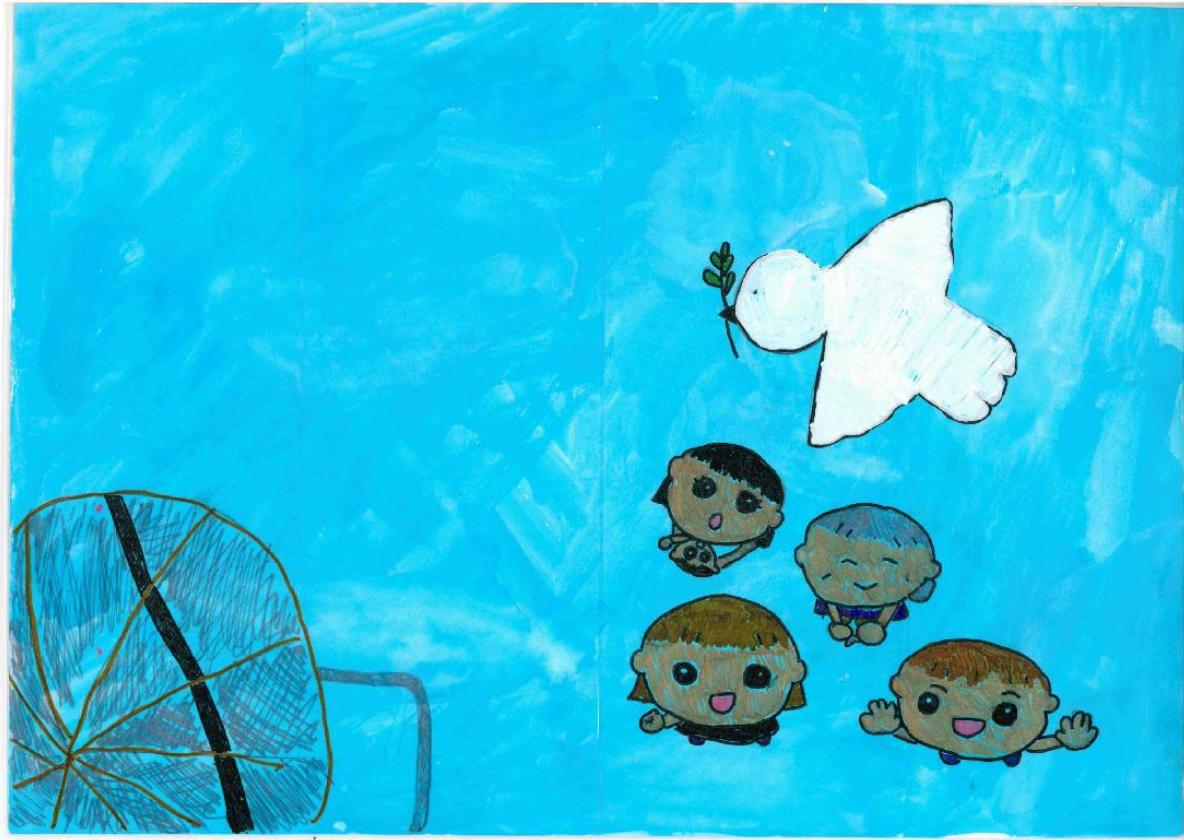
平和の絵





平和の絵



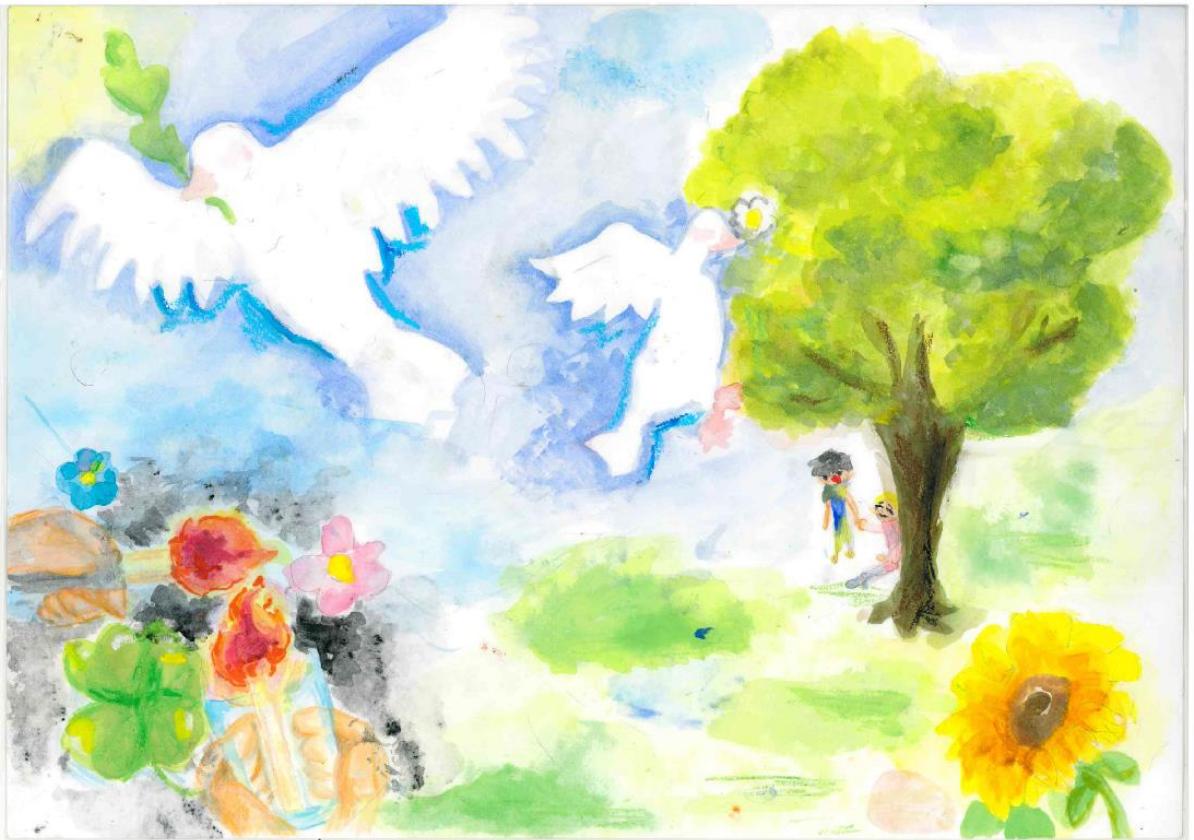


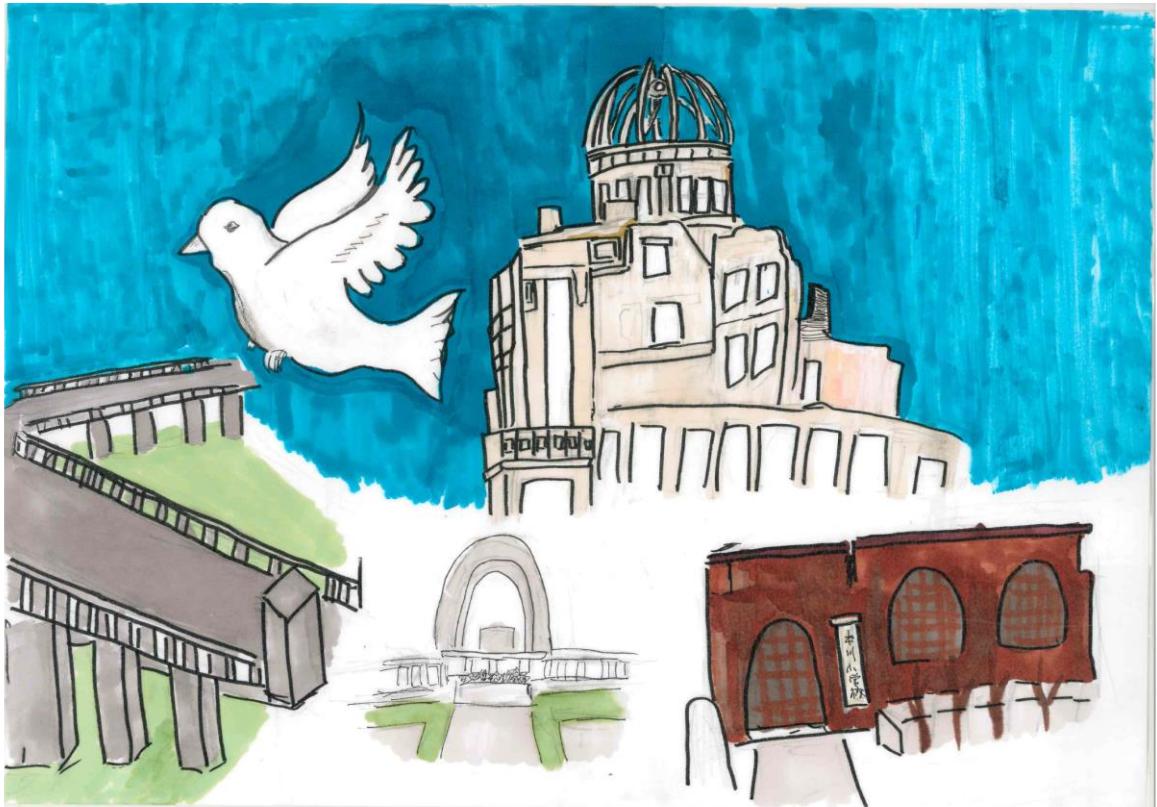
平和の絵



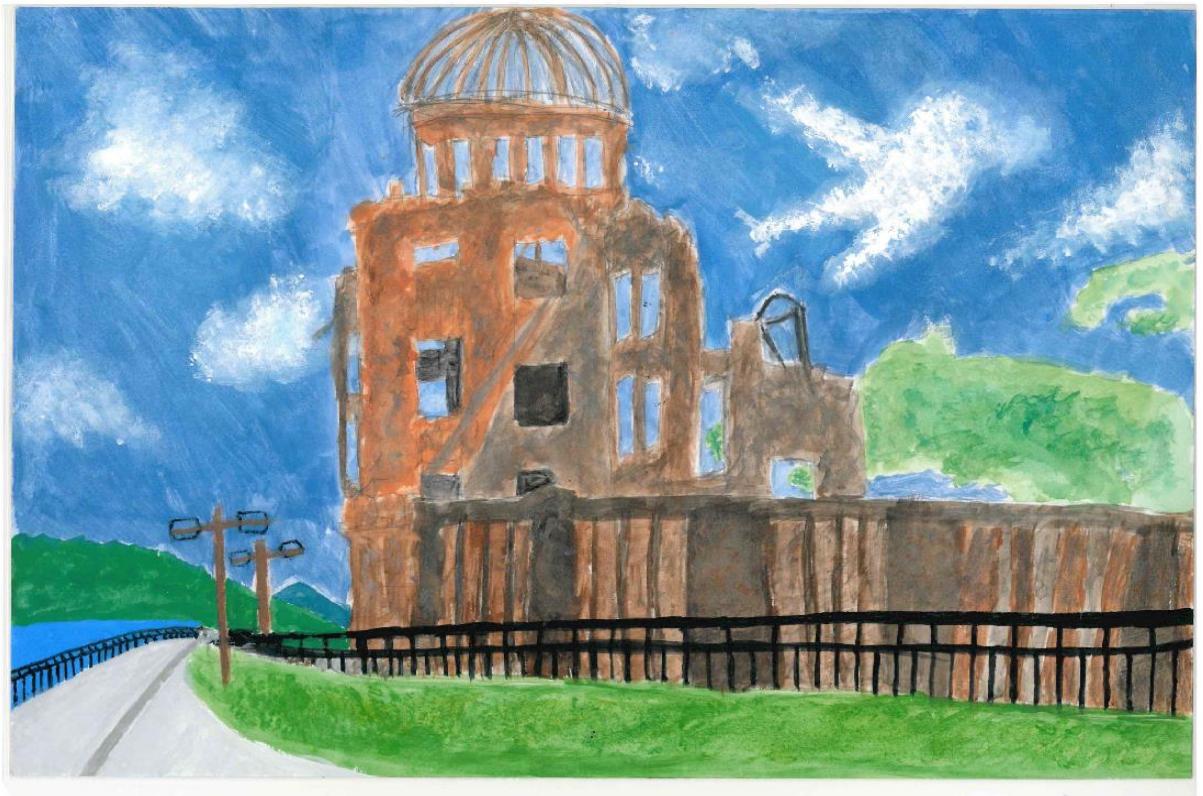


平和の絵





平和の絵





平和の絵



